

## 医系総合大学の特色を活かした「口腔医学」教育

我が国では超高齢社会の到来により、様々な基礎疾患を有し、薬を服用している患者が、歯科を受診する率が高まっている。また一般医科病棟でも、当該の病気に加えて、さまざまな口腔内の症状を訴える患者が増加している。さらに、介護が必要な高齢者に対する口腔ケアの重要性が高まっている。本歯学部では、医系総合大学の学部である特色を生かし、チーム医療に積極的に従事して国民の健康に貢献できるオーラルフィジシャン（口腔科医）を養成するために、カリキュラムの「社会と歯科医療・チーム医療コース」と「オーラルフィジシャンコース」にまたがって、6年一環の「口腔医学」教育に力を入れている。

**医療コミュニケーション：**初年次に医療コミュニケーション入門を4学部合同で学ぶ。2年次には歯科医療コミュニケーション入門を学び、高齢者施設実習で実践する。3年次に医療面接の基礎を学び、4年次に全身疾患を有する模擬患者と1対1で医療面接を行い、全身疾患に対する理解を深めるとともに、コミュニケーション能力を高める。

**歯学生の情報リテラシー：**本学では初年次からPBLなどの能動学習を推進して、生涯学習ができる医療人を養成している。そのために信頼できる情報を入手して活用する「情報リテラシー」能力が必須であるので、初年次の基礎から、演習を通じて、学年ごとに段階的に基礎から上級まで情報リテラシー能力を高める。

**ヒトの病気：**医療人としての基礎的医学知識と安全に歯科医療を実践するための医学的知識を身につけるために、3年次に「ヒトの病気」を学ぶ。「ヒトの病気」の実習として、「大学附属病院病棟体験実習」と基礎疾患を有する模擬患者に対して「全身の医療面接」を行う。

**全身疾患と口腔内科：**基礎疾患がある患者に対して、歯科医療を行う際のリスク診断を行えるようにするために、歯科診療上重要な全身疾患の病因・病態と診断・治療を学ぶ。また、口腔内科的な疾患（顎関節症、舌痛症、口腔乾燥症、口腔顔面痛など）へ対応できるようにするために、その診断と治療について理解する。

### 社会と歯科医療・チーム医療コースとオーラルフィジシャンコース内の 口腔医学教育の流れ

